

(4) 学校経営の方針

一人ひとりの教職員の資質や能力が充分発揮され、教育活動の成果を上げるため、以下を方針として経営を推進する。

- ①教職員相互の対話を深め、教育課題の解決や教育内容の改善等に組織として取り組む。
 - お互いの考えを率直に出し合い、調整を図りながら連携・協力する。
- ②情報の交流と共有を大切に、「学習者起点」を基本に据えた教育活動を推進する。
 - 教育課題を共有し、具体的な改善策を明確にし、実践に努める。
- ③一人ひとりの子どもの実態を把握し、個に応じたきめ細かな指導を行う。
 - 子どもの言動の観察をもとにした情報交換を日常化し、様々な機会を指導に活かす。
- ④教育活動を通して保護者や地域との連携と交流を深め、「開かれた学校づくり」を推進する。
 - 学習の狙いを明確にしながらか地域学習や行事の実践に努める。
- ⑤勤務時間の縮減と働きやすい職場環境を整える。
 - 時間外労働の縮減や会議時間の短縮、定時退校日の設定、休暇取得について数値目標を掲げて改善に取り組む。
 - 勤務時間の弾力化（変形労働時間制やズレ勤）、時間単位の休暇（午後からの年休等）取得を推進するとともに、休暇制度の積極的な活用を奨励し、心身の健康の維持増進を図る。

2 研究主題に関わって

(1) 研究主題

「豊かな心と一人ひとりの学力を育む」
～お互いを認め励まし合える児童の育成と子ども自らが考える授業をめざして～

(2) 目標

- 基礎学力の習熟・定着と自ら考え判断し論理的に表現できる力の育成
- 知的好奇心を持ち、自ら学びに向かう力の育成
- 効果的な複式授業のスタイルの構築と自主学習能力の育成

(3) 課題設定の理由

児童の強みと弱み（課題）の実態を鑑み、弱みを克服し強みを伸ばしていくために、本校の課題であるところの「自ら学びに向かう意欲や自分の思考を練り上げていこうとする態度」を養い高めていくことが必要となる。自ら学びに向かうためには、基礎学力をしっかり身につけ、学習に対して課題意識を持たせることが大切である。そこで、昨年度に引き続き本主題を設定した。

(4) 研究経過

令和元年度は、元三重県教育委員会学力向上支援アドバイザー竹内誠先生のご指導と熊野市教育委員会指導主事の先生方のご助言を賜りながら、「今できそうなところ」に着目し、複式授業の改善に努めてきた。例えば、間接指導時に自学習を進めるために、辞書の活用（意味調べ）、算数の文章問題への取り組み方の見直し（題意をきちんととらえること、イメージ図をかかせること、算数用語を使って自分の言葉で説明させること）、自分の言葉で語る機会の設定、振り返りの時間の確保といったことである。日々の授業においても、本時の学習におけるキーワードの示し方や子どもたちから出た言葉からの授業の展開を図るといったことに指導者の意識を高めていくことができた。具体的には、次のような事柄である。

- *自学習の場面ではガイド学習をとりいれること
- *問題を読み、自力学習から学びあう場面の設定へ繋げること。
- *自分の考えを友だちに伝えあうスキルアップを図ること。
- *なぜ？を問う発問（根拠が話せる）を工夫すること。
- *既習事項が本時の武器（アイテム）となるような授業展開と掲示物の工夫をすること。
- *子どもにとってわかりやすいめあてを設定する授業スタイルを確立すること。
- *間接指導時の ICT 機器を活用した学びの工夫をすること。
- *振り返りの時間の確保し、板書の工夫とノート指導へ連携した書き方の工夫をすること。

令和2年度は、3クラス中2クラスの担任が異動し、管理職も2名とも異動するという状況で、前年度までの流れがはっきりとつかめていない中でのスタートとなった。また、年度当初、コロナ禍の影響で一月ほどの臨時休業となったこともあり、新しい生活様式の中で、子どもたちの実態を把握するにも例年とは異なる環境に置かれた状況でもあった。そこで、「今できそうなところ」に着目し、まず、算数科における実践を共有しながら取り組みを深めていくことにした。前年度に引き続いて、竹内先生のご指導を仰ぎ、また、紀州教育支援事務所、熊野市教育委員会指導主事の先生方の助言を賜り研究を進めた。主な経過は次の通りである。本校職員で行った研修については割愛する。

月日（曜）	授業者/助言者	主な内容
10月21日 （水）	5・6年生提案授業 授業者：仲森 浩樹 5年「分数のたし算、ひき算をひろげよう」 6年「比例の関係をくわしく調べよう」 3・4年生参観授業 授業者：金井 由佳 3年「大きい数のわり算、分数とわり算」 4年「がい数の使い方と表し方」 （招聘）	○複式授業の進め方 *黒板の活用方法について *ノートの活用方法について

	元三重県教育委員会学力向上支援アドバイザー 竹内 誠 先生 紀州教育支援事務所 伴 充 所長 熊野市教育委員会教育課 濱野 修二 指導主事	
11月18日 (水)	3・4年生提案授業 授業者：金井 由佳 3年「小数 数の表し方やしくみを調べよう」 4年「計算のきまり 計算のやくそくを調べよう」 1・2年生参観授業 授業者：山本 有里 1年「ひきざん」 2年「かけ算」 (招聘) 元三重県教育委員会学力向上支援アドバイザー 竹内 誠 先生 熊野市教育委員会教育課 佐藤 卓也 課長	○複式授業の進め方 *教具の活用方法について *間接指導と直接指導における指導者の「では」について
12月9日 (水)	1・2年生提案授業 授業者：山本 有里 1年「ひきざん」 2年「かけ算2」 (招聘) 元三重県教育委員会学力向上支援アドバイザー 竹内 誠 先生 熊野市教育委員会教育課 森倉 睦成 指導主事	○複式授業の進め方 *ゴールイメージを持った授業展開について *教科書のキャラクターの活かし方について

本校の課題克服に向けて、今年度は次のような事柄に力点を置き、複式授業の在り方、ガイド学習の在り方を念頭に据えた実践を積み上げてきた。

- *ノート指導につながる板書の工夫、観音開きの黒板の有効活用について
- *既習内容を思い出すために使う教具の活用の仕方、提示するタイミングについて
- *めあてから振り返りにつながる「ゴールイメージ」を持った授業展開について
- *思考を持続させるために、適度な難易度、生活と密着した問題の設定について